

「ありがとうございます。東京三菱銀行上大岡支店でございます」

「あの、振込があったかどうか確認をしたいのですが・・・」

「ではお名前と口座番号をお願いいたします」

「草川設計事務所です。口座番号は当座預金で五五二九六五です」

「はい、少々お待ち下さい」

「お待ちいたしました。お振込は、いつからの分を申し上げればよろしいでしょうか？」

「はい、九月一日から、昨日九月十日までの間に振り込まれている分があれば教えていただきたいのですが」

「はい、それでしたら、一件ございます。九月九日に木之本圭一様から五十五万五千円振り込まれています」

「九月九日、昨日ですね。お忙しいところありがとうございます」

「いいえ、どういたしまして」

電話を切って武内は経理主任の塚田に内線電話でこの件を伝えた。

「はい、塚田です」

「おはようございます。武内です」

「ああ、おはよう」

「振込の件ですが、東京都民銀行に確認したところ、木之本圭一様から、おとこの九月九日に振込があったことがわかりました」

「振り込まれた金額は？」

「はい、五十五万五千円です」

「それなら木之本様はOKだな。でも他に千葉様や小室様からの分がまだ振り込まれていないということだな。急いで、千葉様と小室様に再度支払いのお願いをしてくれ」

「はい、わかりました。早速、電話を入れてみます」

武内は顧客管理のファイルを開くと、千葉孝明と小室俊樹という顧客の連絡先の番号を控え、受話器を持った。

「はい、千葉でございます」電話に出たのは、千葉の妻、かおり夫人である。

「私、草川設計事務所の武内と申します。いつもお世話になっております。恐れ入りますが、孝明様は今日はお在宅でしょうか？」

「申し訳ありません、午前中は外出しておりますが・・・。よろしければ、私がご用件を承りましょうか？」

「では、お願いいたします。実は、先月にご請求させていただきました分のお支払が、まだ確認できませんので、振込予定日を教えていただけませんでしょうか？」

「大変申し訳ございません！ すぐ確認して折り返しご連絡いたします。あの、失礼ですがもう一度お名前をお願いいたします」

「はい、草川設計事務所、経理課の武内です。電話番号は五二六―五九二二です。よろしくお願いたします」

そう言って武内は電話を切り、「次は小室様か・・・」と呟いた。